

平成 27 年度第 4 回企画展

身のまわりの生活史 10 器 (うつわ) いろいろ



平成 28 年 3 月 12 日 (土) ~ 5 月 8 日 (日)



宮代町郷土資料館

ごあいさつ

私たちの暮らしは、実にさまざまなモノに囲まれています。その多くは、衣食住にかかわるもので、長い歴史の中で生み出され、改良されて現在に伝えられているものです。それらのモノが生み出された背景には、日々の生活の中で繰り返しおこなわれる動作を、より効率良く、より便利におこなうための工夫があったことは言うまでもありません。

今回の企画展では、生活の場に種々あるモノの中から、「器（うつわ）」をテーマに展示しました。「器」という漢字が持つ「物を入れおさめるもの。転じて道具。」という意味に注目し、関連する資料を紹介しています。この展示が、私たちの暮らしをいつもとは違った視点で見直す、そのようなきっかけにしていいただければ幸甚です。

最後に、これらの貴重な資料をご提供くださいました皆様に厚く御礼申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

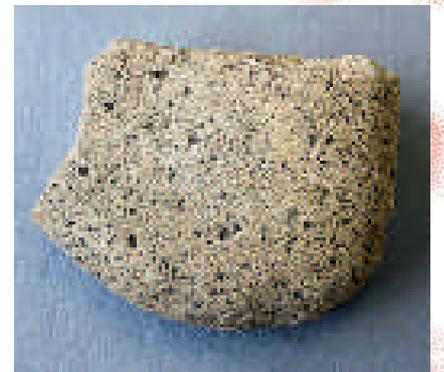
宮代町郷土資料館

～ 凡 例 ～

1. 本書は、平成 28 年 3 月 12 日（土）から 5 月 8 日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館 平成 27 年度第 4 回企画展「身のまわりの生活史 10 器いろいろ」の展示図録です。
2. 展示期間中の休館日は下記の通りです。
3 月 14・22・28 日、4 月 4・11・18・25 日、5 月 2・6 日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、写真撮影、デザイン、編集は、当館学芸員 横内美穂が担当しました。また、一部資料の解説については、当館学芸員 河井伸一の協力によりました。
4. 図録の構成は、展示構成とは異なります。掲載した写真の大きさは任意のものです。
5. 会場及び本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 「器」など、言葉の定義についての参考文献は下記の通りです。
『大字典』講談社：1989 年 5 月 15 日第 24 刷
『広辞苑』岩波書店：1990 年 1 月 8 日第 3 版第 8 刷
7. 資料提供・協力者一覧（五十音順・敬称略）
新井尚・小川清次・小河原悦子・金子和生・金子三春・小島雅郎・小島修・斉藤勘五郎・
関根文雄・田部井理一郎・中村忠男・成田総一・吉岡郁子・渡辺研二

材質による器いろいろ

器を区別して表現する言葉はいろいろですが、わかりやすいものとして「素材による区別」があります。「器」という漢字の前に、木・土・紙・金属（金・銀・銅・鉄など）・骨・漆などといった漢字を置くことにより、その器が作られた素材と、それに由来する特徴までを表現することができます。例えば、同じく土を基本的な素材にしている器でも、土器・土師器・須恵器・陶器・炆器・磁器と書き表すことで、素地の種類や釉薬の有無など使われている素材の種類を示すだけでなく、色や硬度などといった焼き上がりの状態の違いなども明確に表現しています。



1. 石皿 縄文時代

「器（うつわ）」とは

『大字典』（漢和辞典）で「器」という字を調べると、その成りたちとして次のようにあります。「𠄎と犬の合字。𠄎は皿の形、犬之を守る義なりと説文に見ゆ。（中略）器の本義は皿、転じて道具、ウツハの義となれりと。（後略）」

また『広辞苑』によると、「物を入れおさめるもの。入れもの。転じて、一般に器具。」とあります。そして、入れものや道具といったものは役にたつものであることから、転じて人の才能や才知などを表現する言葉としても使われています。

この展示では、器を本来の意味である「入れもの」を示すものとします。皆さんの身のまわりにある器を思い浮かべたとき、どのような器があるでしょうか。

町域では、今から2万年ほど前に人が住み始めたと考えられますが、当時の人々が使っていた器や道具は、石や土、木、動物などの骨から作られていたと考えられます。実際、発掘調査などで発見された遺物には、石で作られた石皿や、土から作られた土器が見つかっています。

旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代と次第に現代へと近づいてくるに従って、素材を加工して器を作り出す技術が向上してきます。技術の向上は新たな素材の活用につながり、結果として、作りだされる器の種類も増えてきました。

2. 注口土器 縄文時代後期前葉



*石器

石で造った種々の器具を示します。主として、先史時代に使われた遺物をいいます。石鏃・石斧などの利器、石皿・石杵などの什器、耳飾りなどの装身具があります。石材は、安山岩・黒曜石・緑泥片岩・サヌカイト・硬玉などが挙げられます。

*土器

釉薬（うわぐすり）を用いない素焼の器物です。軟質の粘土を手でこねて作るため、その形や文様などに民族と時代の特色が反映されます。



3・4. ミニチュア土器 縄文時代後期初頭



5. 甕（須恵器）古墳時代中期



6. 坏と蓋（須恵器）古墳時代

*須恵器（すえき）

古墳時代中期から奈良・平安時代に行われた、大陸系技術による素焼の土器です。良質粘土で大量生産し、登窯（のぼりがま）を使い、高温の還元焰で焼くため薄墨色を呈するのが一般的。主として食器・祭器として使用しました。

*土師器（はじき）

弥生式土器につづき古墳時代から平安時代にかけて製作された素焼の土器です。土師部の製作といわれます。ほとんど文様がなく、皿・碗・高坏（たかつき）・壺などの食器が多いです。



7・8. 坏（土師器）古墳時代後期



9. 益子焼 土瓶 昭和時代

*陶器

土器のさらに進歩した焼物で、素地（きじ）が十分に焼き締まらず吸水性があり、不透明で、その上に光沢ある釉薬（うわぐすり）を用いたものです。

*磁器

素地（きじ）がよく焼き締まってガラス化し、吸水性のない純白透明性の焼物です。



10. 染付松篋図水差 江戸時代

目的による器いろいろ

器を区別して表現する言葉で、先に紹介した「素材による区別」の他に、「目的（状態）による区別」があります。「器」という漢字の前に、食・酒・茶・什などといった漢字を置くことにより、その器がどういった目的で使われるのか、どういった状態で使われるのかなどを表現しています。例えば、「食器」は食事を使う器を示し、「酒器」は酒を呑む時に使用する器で、「什器」は日常使用の家具や道具を示します。また、「火器」は火や火薬を入れる道具を示し、「花器」は花などを生ける器です。

いずれもその言葉を聞いた時には、使用される状態を簡単に思い浮かべることができるのではないのでしょうか。

11. 箱膳 大正時代



12. 菓子皿 昭和9年



* 木器

木製の器物。木のほかに竹や藤などが素材として使われます。

* 金属器

金属で作られた器です。素材として金、銀、銅、青銅、鉄、アルミニウムなどさまざまなものが使われています。



13. 弁当箱 昭和初期

* 紙器

紙製の容器です。身近なものでは、段ボール箱や紙コップなどがあります。現在のようにプラスチックが主流になる前までは、紙器はいろいろな種類がありました。



14. 文箱 昭和初期

15. 染付菊花雲竜文蓋付壺
明治時代



* 食器・酒器

食事を使う器具を食器、酒を呑んだり酌んだりする器具を酒器といいます。皿、椀、丼、徳利、盃などさまざまです。



16. 染付水草鯉図盃洗
江戸時代



20. 九谷焼 煎茶器 近代



21. 九谷焼 煎茶器 近代

* 什器

日常に使用する家具や道具のことをいいます。箆笥や長持、行李、抽斗などといったものが挙げられます。



26. 裁縫箱 昭和初期



27. 洪張行李 昭和初期

* 火器

火をいれて使う道具です。火鉢や懐炉、足炉、こたつ、ストーブなどの暖房器具のほか、行灯、石油ランプなどの照明器具もあります。



29. 足炉 近代



30. 足炉 近代



32. 火鉢 昭和初期



34. 石油ランプ 昭和初期



35. 花器（薄端）昭和時代

* 花器

花を生けるための器です。陶器や磁器のほか、金属、ガラス、竹、藤などさまざまな材質のものがああります。また、その大きさもさまざまです。



40. レコードプレーヤー 昭和 15 年頃



38. 花器（三つ足）昭和時代



43. タヤけ小やけ 昭和初期



39. 染付蘇鉄図花入 江戸時代

42. 愛国行進曲 昭和 12 年



44. TENNESSEE WALTZ 昭和初期



* 蓄音器

音波を記録したレコード盤から音を再生させる装置を示します。レコード盤上には、音に対応する横ぶれを有する溝が刻まれていて、初期のものでは溝に当たっている針の振動を金属板に伝えて直接に音に変えましたが、後に、一度電気的な振動に変えて、増幅器・スピーカーを経て音とする装置となりました。「音を保存しておく器」とすれば、カセットテープや CD、MP3 などの再生装置も、蓄音器の一種と言えるかもしれません



45. バンザイ東京オリンピック 昭和 39 年

展示品リスト

	資料名	年代	寄贈者・出土地		資料名	年代	寄贈者・出土地
1	石皿	縄文時代	地蔵院遺跡(S63)	25	たんす	大正時代	成田総一氏寄贈
2	注口土器(ちゅうこうどき)	縄文時代後期前葉 約4,000年前	山崎遺跡(H19)	26	裁縫箱	昭和初期	渡辺研二氏寄贈
3	ミニチュア土器	縄文時代後期初頭 約3,900年前	金原遺跡(H8~11)	27	洪張行李	昭和初期	吉岡郁子氏寄贈
4	ミニチュア土器	縄文時代後期初頭 約3,900年前	金原遺跡(H8~11)	28	小抽斗	江戸~昭和初期	小河原悦子氏寄贈
5	甗(はそう)	古墳時代中期 約1,550年前	道仏遺跡(H26)	29	足炉	近代	小島雅郎氏寄贈
6	坏(つき)・蓋(ふた)	古墳時代	小島雅郎氏寄贈	30	足炉	近代	小島雅郎氏寄贈
7	坏(つき)	古墳時代後期 約1,500年前	山崎遺跡(H19)	31	やぐらごたつ	昭和初期	小島修氏寄贈
8	坏(つき)	古墳時代後期 約1,500年前	山崎遺跡(H19)	32	火鉢	昭和初期	渡辺研二氏寄贈
9	益子焼 土瓶	昭和時代	成田総一氏寄贈	33	火鉢(手あぶり)	大正3年(1914年)	関根文雄氏寄贈
10	染付松笹図水差	江戸時代	小島雅郎氏寄贈	34	石油ランプ	昭和初期	斎藤勘五郎氏寄贈
11	箱膳	大正時代	中村忠男氏寄贈	35	花器(薄端)	昭和時代	新井尚氏寄贈
12	菓子皿	昭和9年(1934年)	小川清次氏寄贈	36	花器(薄端)	昭和時代	新井尚氏寄贈
13	弁当箱	昭和初期	小河原悦子氏寄贈	37	花器(水盤)	昭和時代	新井尚氏寄贈
14	文箱	昭和初期	吉岡郁子氏寄贈	38	花器(三つ足)	昭和時代	新井尚氏寄贈
15	染付菊花雲竜文蓋付壺	明治時代	小島雅郎氏寄贈	39	染付蘇鉄図花入	江戸時代	小島雅郎氏寄贈
16	染付水草鯉図盃洗	江戸時代	小島雅郎氏寄贈	40	レコードプレーヤー	昭和15年頃	渡辺研二氏寄贈
17	染付青花図盃洗	江戸時代	小島雅郎氏寄贈	41	タヤケ小ヤケ	昭和初期	田部井理一郎氏寄贈
18	染付牡丹唐草文蓋物	江戸時代	小島雅郎氏寄贈	42	愛国行進曲	昭和12年(1937年)	田部井理一郎氏寄贈
19	染付微塵唐草文猪口	江戸時代	小島雅郎氏寄贈	43	君が代	昭和初期	田部井理一郎氏寄贈
20	九谷焼煎茶器	近代	小島雅郎氏寄贈	44	TENNESSEE WALTZ	昭和初期	田部井理一郎氏寄贈
21	九谷焼煎茶器	近代	小島雅郎氏寄贈	45	バンザイ東京オリンピック	昭和39年(1964年)	金子和生氏寄贈
22	染付雲竜兎鴨飛蝶唐草文大皿	江戸時代	金子三春氏寄贈	46	橋幸夫 ラッキーアワー	昭和38年(1963年)	金子和生氏寄贈
23	染付二鶴図八角皿	江戸時代	小島雅郎氏寄贈	47	げんこつ山のためきさん	昭和48年(1973年)	金子和生氏寄贈
24	染付二鹿遊山図中皿	江戸時代	小島雅郎氏寄贈				